

災害救助犬 認定審査規定

2009度

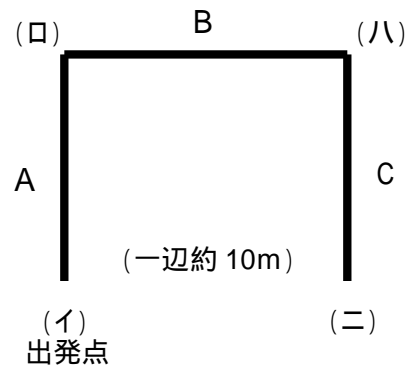
NPO 法人災害救助犬ネットワーク
訓練審査部

1、服従作業 ～

服従作業は、指導手が災害現場において、適切で柔軟な判断、行動が取れ、犬をコントロールすることと、最低限、被災地において他者に迷惑をかけない捜索活動が可能か、を審査します。

紐付き脚側行進(往路は常歩・復路は速歩)

審査員の指示により、脚側停座させゼッケン番号、犬名、指導手名を申告する。審査員の指示により、出発点(イ)に行き、脚側停座させ、指示により出発する。往路(イ) (ロ) (ハ) (ニ)は常歩にて脚側行進、(ニ)地点まで来たら、回れ右をして、留まることなく速歩にて復路を(イ)地点まで戻り、回れ右をして脚側停座させる。(ハ)と(ニ)の間C地点に繫留された犬がいる。



紐無し脚側行進(常歩)

審査員の指示により、紐を犬から外し、指導手の肩にかけるか、ポケット内にいれ、紐付き脚側行進のときと同様の作業を行う。往路の途中(イ)と(ロ)の間、A地点の群衆の前で一旦脚側停座させる。審査員の指示により、再び脚側行進をはじめ。 (ニ)地点まで来たら、回れ右をして、留まることなく常歩にて(イ)地点へ向かう、復路の途中(ハ)と(ロ)の間、B地点あたりで後方から3～4人のジョキング者が通り過ぎるが、そのまま脚側行進を続け、(イ)地点で回れ右をして脚側停座させる。(ハ)と(ニ)の間、C地点に繫留された犬がいる。

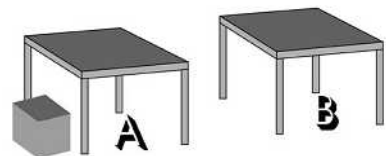
停座、伏臥、立止(対面で1回)

審査員の指示により、紐無しで(イ)地点より常歩脚側行進で(ロ)地点まで行き、回れ右をして犬を脚側停座させる。審査員の指示により、指導手は常歩にて(イ)地点に戻り、回れ右をして犬と対面する。審査員の指示により一声指符のみで、それぞれ伏臥、立止、停座姿勢をとらせ、審査員の指示により招呼し、脚側停座させる。

幅跳び

脚側停座させ、審査員の指示により、踏み台から指導手とともにAの幅跳び台に上り、審査員の指示により犬をB台に跳び越させ、犬が跳び越えれば直ちに『待て』をかけ待たせる。審査員の指示によりB台下まで行き、審査員の指示により跳び越えたB台から降りし脚側停座させる。

犬種による飛び越し幅は、大型犬 110cm、中型犬 80cm、小型犬 50cm。



休止

指定された場所に行き、審査員の指示により犬に休止姿勢をとらせて、犬を繫留する。指導手は、指示により指定された場所で休止終了まで対面せずに待つ。審査員の指示で犬のもとに戻り脚側停座させる。尚、休止場所は、服従コースの繫留C地点。グループの先頭番号の犬が作業中に、グループ最後のゼッケン番号の犬を繫留(休止)し、作業終了順に次の犬が休止となる。

作業のやり直しは審査員の指示に従ってください。

声符、指符とも認めます。

作業中、他の犬や人に対して危害を加えた場合若しくは、そのような動作が認められた場合、以降すべての作業を中止とします。(すべて作業時にも適用します)

2、障害物通過作業(紐無し声指符あり)(a)～(d)

障害物作業はタイムではなく、確実に作業させることが重要です。予測不能な災害現場において、指導手の適切な判断のもと、犬を掌握し犬とともに仕事をさせられることができるか、を審査します。

障害物の手前、出発点の任意の位置に行き、犬を脚側停座させ、審査員の指示により始める。ひとつの障害物を通過し終われば一旦、脚側停座させ、審査員の指示により、次の障害物に進む。



(a)シーツ歩行通過
急がずにゆっくり
バランスをとりなが
ら通過させること。

(b)不安定通過
障害物上の中央で
犬を立止させる。
ブルーシートに異物
が入っている。
上記の上に波板
が乗っている。

(c)はしごを含む
高所通過
はしごを登って、
高所を通過後、傾斜
した板上を通って降
りる。

(d)トンネル通過
直径約60cmの蛇腹
トンネルを通過させ
出口で待たせる。

3、搜索作業(A、B)

A: 平地搜索は、地形変化に対応し、大型犬、小型犬それぞれの特性を発揮させ、指導手の犬の反応への判断と対応法と指導手の指示のもとに、犬が指導手から離れた所における搜索状況を審査します。

B: 瓦礫搜索は、複雑に入り組んだ瓦礫間を確実な指導手の判断と、犬の踏破搜索能力を審査します。

(A) 平地搜索(雑木林・草原)

ヘルパー数名・搜索時間10分間

(B) 瓦礫搜索(家屋倒壊・瓦礫想定現場)

ヘルパー数名・搜索時間10分間

(A)、(B)とも搜索現場は、審査会前日に審査員が決定し、23日の説明会で発表します。

以下、(A、B)とも共通です。

- 1、進行係の指示により、指導手は出発点に行き、犬を脚側停座させ、審査員にゼッケン番号、犬名、指導手名、告知方法を申告し、犬の紐、首輪を取り外し、審査員の指示により作業を開始してください。
- 2、ご褒美の為のボールや食べ物等は、使用できますが、現場に落とさないようにしてください。なお、ご褒美を使用する方は、出発前に必ず審査員に申告してください。終了後、それらの確認をいたします。
- 3、搜索作業は出発点を通過した時点から時間をカウントします。
- 4、搜索作業中の声符、指符は認めますが、立入禁止区域には指導手は入ることはできません。
- 5、犬が発見告知(原則として告知報吠)したと判断したら、指導手は手を挙げ、審査員に「発見」を知らせ、確認に入るか、入らないか、犬を呼び戻すかは、審査員の指示に従ってください。

搜索中、作業意識低下やコントロール不可と審査員が判断した場合、時間内でも審査を中止します。

告知動作において、指導手による誘導が明らかであると審査員が判断した場合、発見の有無にかかわらず減点、若しくは無効とします。

服従・搜索ともに審査要項の説明は、23日の夕方から行い質問も受け付けますが、審査当日は出陳者には説明いたしませんので、申告後は速やかに作業をはじめてください。
すべての作業においては審査員及び進行係の指示に従ってください。

以上